

平成23年行政事業レビューシート

(環境省)

事業名	生物多様性の保全・活用による元気な地域づくり事業		担当部局庁	自然環境局			作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度		担当課室	総務課自然ふれあい推進室 国立公園課 野生生物課鳥獣保護業務室 自然環境整備担当参事官室			室長 堀上 勝 課長 上杉 哲郎 室長 宮澤 俊輔 参事官 大庭 一夫	
会計区分	一般会計		施策名	5-5 自然とのふれあいの推進				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—		関係する計 画、通知等	—				
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	シカ等の鳥獣被害等による自然資源の劣化、観光客の減少、過疎の進行等が危ぶまれる地域を『人材・プログラムづくり』及び『基盤づくり』を通じて、豊かな自然を保全・活用することにより多くの人が訪れる「元気な地域」に変える。							
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	『人材・プログラムづくり』として、自然資源の保全・持続可能な利用のルールづくり、資源活用プログラムの推進をするとともに、ガイド等の人材育成に取り組む。 『基盤づくり』として、国立公園等において、山岳環境の保全のための対策、自然資源の保護管理や室の高い利用サービス等を行うとともに、エコツーリズムに活用する情報提供拠点等を整備する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予 算 の 状 況	当初予算	—	—	—	900	810	
		補正予算	—	—	—	—	—	
		繰越し等	—	—	—	—	—	
		計	—	—	—	900	810	
	執行額		—	—	—	—	—	
執行率(%)		—	—	—	—	—		
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	本事業の成果については、自然の活用だけでなく、定量的指標に馴染まない保全も含めて総合的に評価する必要があるため、定量的な指標の設定が困難。		成果実績	—	—	—	—	—
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	●人材・プログラムづくり		活動実績 (当初見込み)	地域	—	—	—	(—) (16)
	エコツーリズムガイド育成		活動実績 (当初見込み)	人	—	—	—	(—) (150)
	●基盤づくり		活動実績 (当初見込み)	地域 (箇所)	—	—	—	(—) (29)
単位当たり コスト	—		算出根拠	—				
平成 23 ・ 24 年度 予算 内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	職員旅費	0.5	0.3					
	自然環境保全調査費	169.5	137.7					
	生物多様性保全推進交付金	80.0	72.0					
	環境保全施設整備費補助金	150.0	150.0					
	自然公園等事業費(公共)	500.0	450.0					
	計	900.0	810.0					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	—	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	—	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>「元気な日本復活特別要望枠」により、平成23年度から開始された事業であり、地域の再生と活性化に向けて継続的な事業実施が必要。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
	—	自然資源を保全するとともに、持続可能な形で利用することも大変重要である。	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
		<p>・事業番号181 山岳環境等浄化・安全対策緊急事業費補助 上記補助は平成22年6月9日に開催された行政事業レビュー・公開プロセスの結果を受け廃止。生物多様性の保全・活用による元気な地域づくり事業のうち「山岳環境保全対策事業」は、行政事業レビューの意見を踏まえ、第三者委員会を設けて山岳環境保全対策をゼロベースから見直し、新たな枠組みで要求した事業。</p>	